

北イタリア安全対策情報（2024年7月～9月）

1 治安情勢

当地では、依然として窃盗事件が高水準で発生しており、多数の日本人が被害に遭っています。

特にミラノ、ベネチアで置き引き及びスリ被害が多く発生したほか、ミラノーベネチア間及びミラノーフィレンツェ間の列車内で、網棚に置いていたバッグからの盗難被害が目立ちました。

また、ミラノにおいては、ネックレスや高級腕時計を狙った路上強盗事件が頻発しています。品定めをしている犯行グループのターゲットにされないよう、安全対策の基本である「目立たない」ということを改めて意識していただきますようお願いいたします。

2 日本人被害（件数は当館に届け出のあったもののみを計上）

以下は、日本人の犯罪被害の事例をまとめたものです。

（1）車上狙い：1件（4月～6月：1件）

被害例：ガソリンスタンドで給油中、車内に置いていたバッグが盗まれた（ミラノ）。

（2）置き引き：14件（同：13件）

被害例：列車に乗車中、網棚に置いていたバッグから貴重品が盗まれるケースが多発。座席横でコインを落とした人に気を取られている間に、座席の上に置いていたバッグを盗まれた事例もあり（ベネチアーミラノ間、フィレンツェーミラノ間等）。

（3）スリ：14件（同：17件）

被害例：路地を歩行中に水を掛けられたため、バッグからハンカチを取り出して拭いたが、その後バッグ内から貴重品の入ったポーチが盗まれたことに気付いた（ベネチア）。

（4）強盗致傷：1件（同0件）

被害例：夜間、チェックインのためバス停からホテルに徒歩で移動していた女性が、後方から近づいて来た強盗目的の男に押し倒され、頬を2針縫う等の怪我をした。付近の飲食店から人が出て来て犯人が立ち去ったため、それ以上の被害はなかったもの（メストレ）。

3 殺人・強盗・誘拐等凶悪犯罪例

以下は、凶悪犯罪被害の事例（日本人以外の被害者）です。

（1）7月中旬の早朝、ミラノ市モスコバ駅付近で、ロシア人男性が5、6人の男に取り囲まれ、殴られた後に催涙スプレーを掛けられ、5万ユーロ相当の高級時計（ロレックス）を奪われた。

（2）8月上旬の夜間、ミラノ市地下鉄ウディネ駅構内で、イタリア人男性（46歳）が列車から降りたところ、後方から北アフリカ系の2人組に首を掴まれてホームに投げ倒され、3,000ユーロ相当の金のネックレスと腕時計を奪われた。

（3）9月中旬の夜中、ミラノ市ポルタ・ヌオーヴァ地区で、キューバ人男性が北アフリカ系の5人組の男に取り囲まれ、割れたガラス瓶で脅されて8,000ユーロ相当のネックレスを奪われた。被害者が反撃しようとしたところ、催涙スプレーを掛けられた。

4 テロ・爆弾事件発生状況

イタリア国内においてテロ等の発生はありませんでしたが、中東情勢の緊迫した状況及び欧州近隣

国におけるテロ等の発生を受け、イタリア治安当局による高いレベルでの警備が行われています。

【欧州におけるテロ等発生状況】

- 8月23日、ドイツ西部・ノルトライン・ヴェストファーレン州ゾーリンゲン市で開催された市政650周年を祝うイベントで、シリア人の男（26歳）が、来場者らを刃物で襲撃し、3人が死亡、8人が負傷。
- 8月24日、フランス南部・ラグランドモットのシナゴーク（ユダヤ教の会堂）付近で、アルジェリア人の男（33歳）が、車2台に放火。駆けつけた警察官1人が負傷。
- 9月5日、ドイツ南部・ミュンヘンのイスラエル総領事館付近で、ボスニア系オーストリア人の男（18歳）と警察官の間で銃撃戦となり、男が射殺された。

5 対日感情の変化、日本企業の安全に関する諸問題

特になし。